

2021年8月22日 礼拝説教要旨

詩編講解説教74「主よ、思い出してください」

詩編74：1～8、ルカ23：39～43

詩編第74編は「民の嘆きの詩編」という分類に入ります。神の民イスラエルの歴史はまさに嘆き、苦難の連続でありました。何よりこの詩の背景にあると言われますバビロニア捕囚があります。紀元前587年のバビロニアによる侵攻。それはここにあるような破壊があり、殺戮があり、礼拝の場所が焼き払われ、街は廃墟と化しました。人々は散り散りになり、異国の地に連れて行かれ、捕囚民となりました。イスラエルの嘆きはこれだけではありません。帰還して神殿を再建するも紀元前169～167年のシリアによる神殿の占拠が起こり、その後もローマ帝国による支配がありました。紀元70年にはユダヤ戦争でローマ軍によって神殿は破壊されました。

近代においてはナチスドイツによるホロコーストがあります。ホロコーストのことは知っている方は多いと思いますが、そのきっかけとなった出来事についてはあまり知られていません。1938年11月9～10日にかけてドイツ、オーストリア全土でユダヤ人への暴動が起き、実に1400ものシナゴグが同時に襲撃され焼き打ちされました。そして多くのユダヤ人が殺されました。この日のことを「クリスタルナハト（水晶の夜）」と呼びます。この出来事から600万人ものユダヤ人虐殺（ホロコースト）の歴史が始まったと言われます。ですから毎年この日に追悼式が行われます。なぜこの話をしたかという、このクリスタルナハトの出来事をドイツの人々は忘れないように、その襲撃されたシナゴグのあった場所や街の交差点のところなどにモニュメントが据えられて、そこにヘブライ語の聖書の言葉が刻まれています。それが今日の詩編第74編の御言葉です。「あなたの聖所に火をかけ、御名の置かれた所を地に引き倒して汚しました。『全て弾圧せねばならない』と心に言ってこの地にある神の会堂をすべて焼き払いました」（7～8節）まさにこの場所でこのような出来事が起こった。そのことを忘れないようにしているのです。

しかし、このような惨劇はどの国においても、いつの時代も繰り返されるのではないのでしょうか。国家による宗教弾圧があります。近年では香港、中国の教会が国家による弾圧を受けております。かつてわたしたちの国もそうでした。キリシタンの迫害もそうですし、太平洋戦争の時代もそうです。今日もまた教会、礼拝を脅かす力が働いています。それはこのコロナ禍です。先日もある牧師から感染者が増えて聖餐式をどうするかという相談がありました。また別の牧師は小児洗礼を予定しているが予定通り行えるかどうか不安であるという話がありました。礼拝が妨げられています。「あなたに刃向かう者は、至聖所の中でほえ猛り、自分たちのしるしをしるしとして立てました」（4節）「至聖所」というのは神さまが臨在する場所、神殿の中心です。礼拝が妨げられることは、教会の中心において刃向かうものが吠え猛るという状況ではないのでしょうか。そう考えますとこの詩人の嘆きはわたしたちの嘆きでもあると思うのです。

そのような嘆きの中でわたしたちの心に当然芽生える思いがあります。「神よ、なぜあなたは養っておられた羊の群れに怒りの煙をはき、永遠に突き放してしまわれたのですか」（1節）これは嘆きの極みと言ってもよいでしょう。神さまから突き放され、見捨てられる。これ以上の嘆きはありません。しかしこれと似た響きをわたしたちは知っています。主イエスが十字架の上で叫ばれた「わが神、わが神、なぜわたしをお見捨てになったのですか」という叫びです。わ

わたしたちはこの嘆きの極みにおいて、そこに十字架におかかりになられたイエス・キリストを見ることができます。突き放されたと思った、そのところにキリストがおられます。そこでわたしたちを受け止めてくださる。そのためにキリストはこの世に来てくださいました。「永遠の廢墟となったところに足を向けてください」(3節)足を向けるというのはそこに神さまが介入されるということです。その介入こそイエス・キリストの出来事に他なりません。キリストはこの世に来られ、わたしたちの死の中に、罪の中に介入された。神さまから突き放されたところに入ってこられた。わたしたちはそのことを信じることができるのです。

それだけではありません。2節に「どうか、御心に留めてください」とあります。これは思い出してくださいということです。ここを読んだ時に、主イエスが二人の犯罪人と一緒に十字架につけられたところが頭に浮かびました。一人は主イエスを罵りましたが、もう一人は主イエスに「イエスよ、あなたの御国においでになるときには、わたしを思い出してください」(ルカ23:42)と言います。主イエスはその人に「あなたは今日わたしと一緒に樂園にいる」(ルカ23:43)と言われました。「わたしを思い出してください」と言われ、主イエスはただこの人を忘れないだけではない。「あなたは今日わたしと一緒に樂園にいる」と救いを約束してくださいました。それは将来に向かう神さまの積極的な救いの御業です。何よりそこに十字架とよみがえりの御業が示されています。

この救いによってわたしたちはただ嘆きの中に沈み込んでしまうのではなく、そこから立ち上がり、新しく歩み出す力を得ることができます。主イエスに思い出された者、御心に留められた者はそのように新しく生きることができるのです。もちろん思い出すこと、忘れないことは大切です。クリスタルナハトの出来事をドイツの人々が忘れないようにしていることは大切です。戦争の悲惨を思い起こし忘れないことは大切です。でもただ忘れないだけなのか。過去を思い出せばそれでいいのか。そうではありません。わたしたちはそこから先、将来に向かって歩み出さなければいけません。それは嘆きの中に沈み込んで生きるのではなく、平和を造り出していくために生きることです。そのためにキリストは十字架で死んでよみがえってくださった。罪に打ち勝ち、よみがえりの命を与えてくださいました。その救いによってわたしたちは過去を乗り越えていくのです。クリスタルナハトの歴史は変えられません。戦争の歴史は変えられない。でも将来は変えられます。わたしたちはキリストによってすでに嘆きから立ち上がっているのです。